

分科会こそが大会の華

◆分科会こそが全道大会のメイン

高文連新聞部の全道大会は他の高文連の大会と違って、コンクールがメインではありません。また、高体連や高野連のように勝敗をつける競技でもありません。

新聞の全道大会の目的は、「北海道の新聞を作っている仲間が意見や経験を交流して明日からの新聞作りに役立てる」ことにあります。

たった一枚の手書き新聞でも自分の学校から生み出された言葉を懸命にまとめ上げた紙面。学校の仲間が熱心に読んでくれて、発見したり、考えてくれたり、行動のきっかけになってくれる紙面。それが素晴らしい新聞なのです。

一枚でも自分たちの学校生活を背景にした新聞を作っていれば（いや、作りたいと思っているならば）、作り手（先輩たちは誇りをこめて「高校生新聞編集者」と言っています）一人ひとり学校の違いを超えた同じ高校生新聞を作っている仲間なのです。

北海道の高校生新聞編集者が集う大会では、みんなで意見や経験を交流する分科会こそが「大会の華」、そして「大会のメイン」と言われているのです。その生徒同士の交流重視の姿勢が、高校生新聞王国といわれた北海道の歴史を作り、全国の新聞活動の牽引役を果たし（全国各地そして全国の新聞大会は、歴史上もっとも早く形成された北海道の大会の影響を受けています）、そして心ある人々から高く評価されているのです。

◆活動内容は一人ひとり違っても、みんな新聞作りの仲間です

全道大会までにたった一枚しか新聞を発行したことがない、という学校の皆さん。自分たちは立派な活動をしていないから、と遠慮する必要はまったくありません。自分たちの意見をしっかり話して、みんなの言葉に耳を傾け、そして活発な学校から謙虚に学んでください。

全道大会までにブランケット、タブロイド、そして、パソコン・手書き新聞をどんどん発行している皆さん。そのエネルギーをたくさん学校の伝えてください。新聞にかける思いを語ってください。ノウハウを教えてください。みんなでより高いレベルの活動を目指しましょう。活動は今ひとつ、という学校が地元に戻った後、突然すごい新聞がどんどん出せるようになるくらいの刺激を与えてください。そして逆に、経験の少ない学校の局員の言葉にも耳を傾けてください。活動のヒントが意外にたくさんあるのです。ぜひ、たくさん発見を手にしてください。

みんな、仲間なのです。思いっきり全道大会で新聞作りにかける思いをぶつけ合い、お互いに元氣をもらって、明日からの活動につなげてください。

かつて、まったく新聞を作ったことがなく他人に誘われて入局した生徒が、しぶしぶ全道大会に参加し、活発な活動をしている学校の局員の言葉に感動し、学校に戻ってから局長になり、発行が停滞していた新聞を月刊で復活させたことがありました。

議論が白熱して、分科会の時間ではおさまらず、宿舎に帰ってから話し合っていた局員たちもいました。分科会がきっかけで一生の友だちを得た人もいます。いつも同じ高校が白熱した議論を繰り広げ、毎年、全道大会の名物となっていた分科会もありました。

こうした先輩たちの情熱が築き上げた分科会が、みなさんの活動を支える伝統として引き継がれているのです。

北海道高文連 70 周年記念大会 第 70 回全道高等学校新聞研究大会（道南大会）

分 科 会 一 覧

●分科会参加に当たって

- 1 提言者は「提言者レジュメ」を、参加者は「参加者レジュメ」を作成します。
ただし分科会ごとに提出物・部数が異なるので各分科会のページをよく読み、項目に沿って作成して下さい。
- 2 「参加者レジュメ」は「提言者レジュメ」を読んだから作成し、共有したドライブに9月29日までに提出します。参加者は当日までにダウンロードをして持参します。（PDF・または紙）
※詳細は別紙「◆提言者レジュメ／Ⅳ分科会支部報告と参加者レジュメの書き方」を参照してください。
- 3 自分が参加する分科会の「提言者レジュメ」は市立函館高校の HP からダウンロードし、当日も忘れずに持参してください。（9月5日以降にアップロードします）
- 4 分科会打ち合わせ（大会1日目）は15：30から実施します。記念講演終了後に各分科の打合せ場所に移動してください。ⅠA、ⅡB1、ⅡC、Ⅳ分科会は全員出席。ⅠB、ⅡA、ⅡB2、Ⅲ分科会は提言者（代表者）・司会者・運営者・助言者・講師のみの出席となります。

| 分科会 | 討議・実技のテーマ | 討議内容・実技内容紹介 | 備 考 （当日の持参物等） |
|-------|--------------------------------|--|--|
| Ⅰ A | 高校生新聞の役割と可能性を考える | 高校生新聞だからこそ果たせる役割と可能性について、「何を、何のために、どのように伝えていくのか」自校新聞の実践を基に討議します。 | ・ 提言者レジュメ ・ 参加者レジュメ （事前にダウンロード） （必要に応じて） ・ 自校新聞 （参加者＋20部） |
| Ⅰ B | 高校生新聞をどのように作るか（企画・取材を考える） | 各学校の実践を基に意見交換し、よりよい企画や取材のためにはどうすればよいか討議します。またよい紙面作りのための企画会議の持ち方についても考えます。 | ・ 提言者レジュメ ・ 参加者レジュメ （事前にダウンロード） |
| Ⅱ A | よりよい新聞を作るために他校紙に学ぶ | 講師は菅原淳先生（前専門委員長）。レジュメの発表、質疑、班による意見交換を行い、自校の実践に生かせることを考えます。後半は菅原先生による新聞クリニックと分科会全体の振り返りを通して、明日からの新聞局活動、紙面を考えます。 | ・ 提言者レジュメ ・ 参加者レジュメ （事前課題・当日持参） ・ 自校新聞 （クリニック希望校・郵送） |
| Ⅱ B 1 | よりよい新聞を作るために ①取材して記事を書こう | 講師は渡辺多美江さん（元北海道新聞記者）。取材の基本と写真撮影について学び、模擬共同記者会見を行います。実践的な取材方法について学び、人物紹介記事を作成し、編集技術の向上を目指します。 | ・ 各校の新聞 （ダウンロードまたは紙） ・ 筆記用具、カメラ （スマホ可） （必要に応じて） はさみ、のり、定規 |
| Ⅱ B 2 | よりよい新聞を作るために ②レイアウトの技術を高めよう | 講師は秋田隆之先生（元専門委員長）。「読者を第一に考えた、美しいレイアウト」をテーマに、班での討議と実習を通して学びます。 | ・ 課題新聞 （参加者＋20部） ・ 筆記用具等 |
| Ⅱ C | 地域を取材して新聞を作ろう | 講師は小林哲也先生（帯広柏葉高校新聞局顧問）。「青函連絡船記念館摩周丸」を取材し新聞を作成します。 | ・ 取材メモ、カメラ（スマホ可）、雨具 |
| Ⅲ | 校内生活・社会生活について考えよう | 「ICT ツール」の利用や「AI」との付き合い方について話し合います。各校の状況や自分の考えを出し合い、新聞にどのように取り上げていくかを討議します。 | ・ 提言者レジュメ ・ 参加者レジュメ （事前にダウンロード） |
| Ⅳ | 支部活動を活発にするために | 各支部・学校の状況や活動内容を報告し、日頃の悩みから支部活動、全道大会のあり方まで様々な意見を交換します。また、先輩方が議論してきた内容を継承し、道内の高校生新聞が充実していくための方策を討議します。 | ・ 支部報告 （提言者レジュメ） ※各支部1名 |

I A分科会 高校生新聞の役割と可能性を考える

私たちはなぜ新聞を作るのか。高校生新聞だからこそ果たせる役割や可能性とは何だろう。高校生の知る権利と意見表明権を尊重する新聞の役割や可能性について、「何を、何のために、どのように伝えていくのか」を自校新聞の実践をもとに討議し、自分たちの新聞づくりについて考えます。

◆具体的な討議内容

- 1 高校生新聞にできることはどんなことか
 - ① 自校新聞でどんな記事をどのように載せているか、具体的に報告します。
 - ② 自校新聞で取り上げた記事や特集、局説、コラムなどをもとに、読者の反応や新聞に掲載したことによる変化、改善点などを報告します。
 - ③ ①②を踏まえ、高校生新聞が校内でどのような役割を果たしているかを話し合います。
 - ④ 高校生新聞が校内だけではなく、地域・社会に対してできることはないか、自校新聞で取り組んだことがあれば報告し、地域・社会に対してどんな働きかけができるか、可能性について考えます。
- 2 新聞を作る上での困難をどう乗り越えるか
 - ① 新聞を作成する上で困難なことがあれば報告します。
 - ② ①の困難に直面したとき、どのように対処したのか、参加校の実践を通して意見を交流し、これからの作成活動について考えます。
- 3 高校生新聞を発行する意義や可能性は何か
 - ① 新聞局（部）の活動や新聞作成を通して感じたやりがいや喜びについて報告します。
 - ② 1～3を通して、なぜ私たちは新聞を作るのか、高校生新聞を発行する意義について考えます。

◆提言者レジュメについて（該当生徒のみ提出）

- ・上記の具体的な討議内容1～3の項目について、A4判1枚にまとめてください。
- ・わかりやすく提言する上で必要な自校新聞等があればA4判のPDFを添付してください。また添付した新聞は分科会参加人数（提言者・司会者・助言者・運営者を含む）プラス20部印刷し、分科会会場で当日配布して下さい。
- ・提言者レジュメ（必要があれば自校新聞）は、8月28日（金）までに下記アドレスへメールで送付してください。（PDFファイルでのご提出にご協力ください。）

◆参加者レジュメについて（全員提出）

- ・9月4日（金）以降に当番校HPにアップロードされる「提言者レジュメ」を読んだ上で、上記の具体的な討議内容について、自校の状況や自分の考えを項目ごとにまとめてください（A4判、縦置き、横書き）。その際、「提言者レジュメ」で述べられている内容についての感想や意見も入れてください。
- ・参加者レジュメの左上に、自分の参加者番号・分科会名を明記してください。
- ・司会もグループ討議に参加します。可能であれば、一般参加者同様にレジュメを作成してください。
- ・参加者レジュメは、9月28日（月）までに指定の場所にPDFファイルで提出してください。
- ・参加者は、10月1日（木）以降に当番校HPにアップロードされる「参加者レジュメ」をダウンロードして持参してください。

◆当日持参するもの（全員）

- ・「提言者レジュメ」（紙またはPDF） ※提言する上で必要な自校新聞等は提言者が持参します。
- ・「参加者レジュメ」（紙またはPDF） ※討議する上で必要な自校新聞は分科会参加人数（提言者・司会者・助言者・運営者を含む）プラス20部印刷し、分科会会場で当日配布して下さい。

◆分科会打合せ（全員）：10月7日（水）15:30 から 函館市民会館大会議室 で実施

- ・レジュメ作成は「提言者レジュメ・IV分科会支部報告と参加者レジュメの書き方」を参照してください。
- ・提言者レジュメ等の提出先：hokkaido.shinbun@gmail.com
- ・参加者レジュメ等の提出先：Google ドライブ> 共有アイテム> 参加者レジュメ等> 各分科会フォルダ
- ・提言者レジュメおよび参加者レジュメのダウンロード用 URL：http://<https://ichihako.ed.jp/>（市立函館高 HP）

I B分科会 高校生新聞をどのように作るか(企画・取材を考える)

各学校ではどのように企画を立て、取材先や取材内容を決めているのでしょうか。各学校の実践を基に意見交換し、よりよい企画や取材のためにはどうすればよいか討議します。よい紙面作りのための企画会議の持ち方についても考え、自分たちの新聞作りに生かしましょう。

◆具体的な討議内容

1. 自校新聞で取り上げた企画について

- ① 各学校ではどのようにして企画を決めているのか。企画会議の持ち方や企画書など、企画を立てるまでの過程について、自校新聞を基に報告し、意見交換をします。
- ② どのような角度や視点で取材を進めたか等、自校新聞を基に報告し、意見交換をします。
- ③ 自校新聞で取り上げた企画の成功した点・失敗した点、読者の反応などを報告します。
- ④ 企画や取材を進めていく中で苦労したこと・困ったことについて、その解決策を考えます。
- ⑤ アンケートや資料、写真等の工夫や活用法について、意見交換します。

2. 企画会議を充実させるために

- ① 企画会議が充実している学校から、どのように企画会議を進めているのか実践報告をしてもらい、企画書の書き方・企画会議の進め方について学び、意見交換します。
- ② 班ごとに、テーマに基づいて、どう企画を組むか模擬編集会議を行います。
- ③ 班ごとに発表します。
- ④ 高校生新聞ではどのような点に留意して企画・取材を進めていくと良いのか考えます。

◆提言者レジュメについて（該当生徒のみ）

1. 上記の「具体的な討議内容1」の①～⑤について、項目ごとに、自校の状況をA4判1枚（縦置き・横書き）にまとめてください。
2. 提言する上で必要な自校新聞等はA4判PDFで添付してください。
3. 必要な自校新聞と「提言者レジュメ」は、8月28日（金）までに、指定の場所へPDFファイルで提出してください。

◆参加者レジュメについて（司会も含め、提言者以外全員）

1. 9月4（金）日以降に当番校HPにアップロードされる「提言者レジュメ」を読んだ上で、〈感想〉〈自校の状況との比較〉〈自分の考え〉を、①～⑤の項目ごとにA4判1枚（縦置き・横書き）にまとめてください。
2. レジュメの左上に、自分の参加者番号・分科会名を明記してください。
3. 意見交流をする上で必要な自校新聞と「参加者レジュメ」は、9月28日（月）までに、指定の場所へPDFファイルで提出してください。
4. 参加者は、10月1日（木）以降にアップロードされる「参加者レジュメ」を、ダウンロードして持参してください。

◆当日持参するもの（全員）

1. 「提言者レジュメ」とアップロードされていた各校の新聞（紙またはPDFで用意）
2. 「参加者レジュメ」とアップロードされていた各校の新聞（紙またはPDFで用意）

◆分科会打合せ（運営・司会・提言・助言）：10月7日（水）15:30 から 函館市民会館小ホール で実施

- ・レジュメ作成は「提言者レジュメ・IV分科会支部報告と参加者レジュメの書き方」を参照してください。
- ・提言者レジュメ等の提出先：hokkaido.shinbun@gmail.com
- ・参加者レジュメ等の提出先：Google ドライブ> 共有アイテム> 参加者レジュメ等> 各分科会フォルダ
- ・提言者レジュメおよび参加者レジュメのダウンロード用 URL：http://<https://ichihako.ed.jp/>（市立函館高 HP）

ⅡA分科会 よりよい新聞を作るために他校紙に学ぶ

各校の新聞局活動と紙面に学び、よりよい活動・紙面を目指します。講師は、稚内・函館東・小樽桜陽各校の顧問として活動の充実に取り組み、全道・全国で高校生新聞へのサポートを続けてきた菅原淳先生（前専門委員長）です。午前中は各提言校の発表、質疑、班による意見交換を行い、自校の活動に生かせることを考えます。午後前半は新聞クリニックを行い、後半では、明日からの新聞局活動、紙面をいろいろな角度からみんなで考えます。

最大30人程度の運営で検討中です。希望者が多い場合、同一校の参加は一人などのお願いをする場合があります。

◆具体的な討議・実習内容

1. 前半
 - ① 提言校からの発表
 - ② 提言について参加者レジュメも用いながら班討議→発表して共有、話し合い
2. 後半
 - ① 講師による各校への新聞クリニック（紙面を分析し今後に向けたアドバイスをします）
 - ② 提言・クリニックを踏まえ、班討議によりよい新聞局活動、紙面のありかたを考えます。
 - ③ 班ごとの発表により討議内容を共有し、さらに全体で考えていきます。

◆事前課題、レジュメの作成・クリニック希望校の新聞提出方法

1. 事前課題（当日持参です） 提言者、参加者ともに、自校の活動の特色が表れた新聞を2号選択し（写植・手書き・ワープロいずれでも混在でもOK）、レジュメを一番上に添付して綴じた資料（面数が多く綴じにくい場合は学校の封筒に入れて下さい）を50セット作成し当日持参して下さい。

レジュメ 提言者レジュメは自校の活動や経験から得たこと、全道大会で参加者に伝えたいことをまとめて下さい。書式（手書き・パソコン・イラスト使用など）は自由、枚数も自由です。

参加者レジュメは（1）自校新聞の特徴（推しポイント）（2）今後に生かしたい反省点（紙面・局活動）（3）やりたくてもできなかったこと・今後やってみたいこと（4）他校に聞きたいこと をA4版1枚にまとめて下さい。提言者レジュメと同じく書式は自由。1校2人以上参加の場合はそれぞれ別々の号を選択して各自の考えをまとめたレジュメを作成して下さい。

2. クリニックを希望する学校の新聞提出方法（期日厳守をお願いします）

当日、講師が、「新聞クリニック」を行います。希望校は「事前課題」と同じ2号を選択し9月4日（金）必着で送付して下さい。整理の都合上（「3」の新聞と混同しないよう）、封筒に「クリニック希望紙」と朱書きして下さい。クリニック参加は分科会の参加条件ではありません。

3. 参加しなかったけれども人数の関係でこのⅡA分科会には出席できない、という学校の皆さんへ

希望校には講師が今後の紙面作りのアドバイスを文書で行います。参加校と同じ2号分を上記住所まで送付願います（締め切り同じ）。当日お渡しする予定ですが、希望が多い場合は後日送付となる場合もあります。

・レジュメ作成は「提言者レジュメ・Ⅳ分科会支部報告と参加者レジュメの書き方」を参照してください。

・クリニック用新聞の提出先

〒040 0002 函館市柳町11番5号 市立函館高校

全道高等学校新聞研究会事務局 第ⅡA分科会 新聞クリニック担当 宛

◆分科会打合せ（司会者・運営者・助言者・講師）：10月7日（水）15:30から 函館市民会館小ホール で実施

講師よりひとこと 経験の浅い学校の新聞にはほんの少しの心がけで紙面がよくなるポイントがあります。一方で、ハイレベルな活動の学校にも局員が気付きにくい意外な落とし穴があります。そんな話から始めて、皆さんの活動からエネルギーをもらいながら、新聞づくりや局活動に新たな夢や希望が湧いてくるようなアドバイスに広げることができれば、と思っています。もちろん、ネガティブな愚痴だって頑張っている証拠。大歓迎です。

ⅡB1分科会 よりよい新聞を作るために① 取材して記事を書こう

元北海道新聞記者の渡辺多美江さんを講師に迎え、取材の基本と写真撮影について学び、模擬共同記者会見を行います。実践的な取材方法について学び、人物紹介記事を作成し、編集技術の向上を目指します。

◆具体的な実習内容

1. 基礎編

- ①記事の読み方
- ②記事作成のための準備と取材の基本

2. 実践編

- ①質問の考え方と質問のしかた
- ②写真撮影のしかた
- ③見出しのつけ方
- ④取材に臨む心構えと準備
- ⑤模擬記者会見

函館の歴史的風土を守る会 事務局長
(北海道教育大学函館校非常勤講師)

櫻井拓郎様

- ⑥記事作成
- ⑦各班の発表(記事・写真・見出し)→自己評価と班内での相互評価、講師からの評価
- ⑧講師からの講評と分科会の振り返り
- ⑨新聞クリニック

◆事前に送付するもの(全員)

- ・クリニックしてほしい自校新聞(1号分)を、9月4日(金)までに指定の場所にPDFファイルで提出してください。
- ・ファイル名を「分科会名_自分の参加番号_高校名(「高校」をつけない略称)_氏名」にしてください。
(例:ⅡB①_31_函館高校_山田太郎)

・自校新聞の提出先:Googleドライブ>共有アイテム>参加者レジュメ等>各分科会フォルダ

◆当日持参するもの(全員)

- ・各校の自校新聞を当番校HPからダウンロードしたデータと、それらを見られるデバイス、または印刷したもの。
 - ・筆記用具、取材ノート、カメラ(スマホ可)等、取材や記事書きに必要なもの。
- ※原稿用紙・新聞割付用紙は当番支部で用意します。

◆分科会打合せ(全員):10月7日(水)15:30から 函館市民会館大会議室で実施

ⅡB2分科会 よりよい新聞を作るために② レイアウトの技術を高めよう

元札幌啓成高校新聞局顧問（元専門委員長）の秋田隆之先生を講師にお迎えし「読者を第一に考えた、美しいレイアウト」をテーマに、班での討議と実習を通して学びます。参加者は事前に示される課題に従って「課題新聞」を作成し、指定された期日までに提出しなければなりません。

◆具体的な討議・実習内容

1. 各自の課題新聞をもとに交流

- ①班に分かれ、自己紹介も兼ねて、各自の課題新聞を紹介します。どのように考えてそのレイアウトにしたのかを説明します。
- ②班長（司会を兼ねる）と記録を班で選びます。
- ③班の中で、一番よいと思う紙面を選び、実物投影機などを用い、どこが良かったのかを会場の参加者全体に説明します。

2. 読者を第一に考えた、美しいレイアウトについて確認

- ①講師から、レイアウトのポイントについて説明します（レイアウトの基本とそこにある考え方、囲み罫線・仕切り罫線の扱い方、など）。
- ②事前提出された「課題新聞」に対する講師からの講評（時間の制限があるので、ここではポイントを絞って説明。細かくは紙面に朱筆して本人に渡されます）があります。

3. 別の素材を使って、制限時間内に新たなレイアウトを作ろう。

- ①新たに提供される素材を使い、制限時間内に各自でレイアウトを作ります。ただし、記事に関してはダミーを貼り付けるので可とします。また、見出しに関しては、班内で議論して候補をいくつも作り、それを参考とすることができます。
- ②班の中で、一番よいと思う紙面を選び、どこがよかったのかを会場の参加者全体に説明します。
- ③講師からの講評があります。
- ④助言者からまとめの講評があります。
- ⑤作成した紙面は提出してもらいます。後で pdf ファイルに変換し、Web 上で大会参加者と共有できるようにします。

◆当日持参するもの（全員）

- ・課題新聞（それぞれ左上に、自分の参加者番号・分科会名を明記）を分科会参加人数（司会者・助言者・運営者を含む）プラス 20 部印刷し、分科会会場で当日配布してください。
- ・筆記用具、はさみ、のり、定規、見出し用の太めのサインペン。ただし、割り付け用紙、スクリーントーンは当番支部で用意します。

◆分科会打合せ（司会者・運営者・助言者・講師）：10 月 7 日（水）15:30 から 函館市民会館小ホール で実施

ⅡC 分科会 地域取材して新聞を作ろう

帯広柏葉高校新聞局顧問の小林哲也先生を講師に迎え、青函連絡船記念館摩周丸で取材をし、新聞を作成します（B4判1面）。函館空襲や洞爺丸台風などの歴史、車両航走システムや船の安全性向上、自動化など技術的なことについて記念館スタッフに取材する他、当日そこを訪れている方々にも取材し、文化財継承の意義を考えてもらいたいです。お互いの持っている編集技術を出し合い、協力し、全道の仲間と交流を深めながら新聞作成をします。完成した新聞は取材先に届けられます。（※参加者は30名を上限とします。）

◆具体的な実習内容

1. 分科会打合せ

参加者は9月4日（金）以降に当番校HPにアップロードされる資料を事前に読み、どのような記事を書けるか相談し、質問を考える。役割分担・割り付けも考える。

2. 当日のおおまかな時程

8:20－11:00 （バスで移動）青函連絡船記念館摩周丸にて取材
11:40－15:30 編集会議・新聞完成（適宜、昼食休憩）
15:45－16:10 班ごとに紙面について説明し、全体で相互評価
16:10－17:00 講師の先生から講評と分科会のまとめ

3. 新聞作成

新聞（B4判1面、手書き）を作成する。レイアウトは用意したテンプレートの中から選び活用します。

- ① 写真は担当者の意見を取り入れ、編集長が選びます。
- ② 写真が確定したら編集長はレイアウトを確定し、各担当者へ記事の予定数を伝えます。
- ③ 記事作成者は、レイアウトが決まる前から記事を書き始めます。予定数より長く作成し、記事ができたら仮見出しをつけて編集長に渡します。
- ④ 編集長は記事を読み、見出しやキャプションを決めます。

4. 完成した新聞を印刷し、班ごとに相互評価した後、講師の先生から助言をいただき、記事の書き方や新聞の作り方についての学びを深めます。

5. 講師の先生から講評をいただき、分科会のまとめをします。

◆当日持参するもの（全員）

メモ用紙、筆記用具、カメラ等取材に必要なもの、雨具（天候に応じて）

※原稿用紙、割付用紙、トーン、飾り罫線は当番支部で用意します。

はさみ、カッター、のり、ペン、定規も当番支部で用意しますが、あれば各自持参して下さい。

◆取材先について

青函連絡船記念館摩周丸（函館市若松町12番地先）

摩周丸は1964（昭和39）年から続々と作られた津軽丸型連絡船（高速自動化船）7隻のうちのひとつで、1965（昭和40）年6月に就航し、1988（昭和63）年3月の青函連絡船最後の日まで走りました。連絡船廃止後、母港函館に保存されることになり、現在、博物館として乗船することができます。

2008年度 経済産業省近代化産業遺産認定

2011年度 日本機械学会機械遺産認定

2023年度 日本船舶海洋工学会ふね遺産認定

◆分科会打合せ（全員）：10月7日（水）15:30 から 函館市民会館大会議室 で実施

Ⅲ分科会 校内生活・社会生活について考えよう

校内生活・校外生活における様々な問題を考えます。今回は「ICT ツール」の利用や「AI」との付き合い方について話し合います。身近にある問題から社会問題を深く考えることは、新聞に記事として取り上げる際にも重要になってきます。各校の状況や自分の考えを出し合い、新聞にどのように取り上げていくかを討議します。

◆具体的な討議内容

1 校内生活における ICT ツールの利用

2022 年度から実施された 1 人 1 台端末導入に伴い、学校生活の様々な場面（授業や家庭学習、家庭への連絡等）に ICT ツールが導入されてから数年が経過しました。「〇〇に関しては以前より便利になった」「××なところはもっと改善してほしい」など、実際に利用している生徒や保護者のみなさん具体的な利点や問題点を感じているはずです。そのような状況を踏まえ、以下のように議論を進めます。

①各校の状況を紹介する。

②校内での ICT ツールの利用に関する利点と問題点をあげる。

③校内での ICT ツールの望ましい利用法について考える。

④これまでの議論を踏まえ、校内での「ICT ツール」の利用について、高校生新聞で取り上げるための企画書を作成し、班ごとに発表し、全体で共有する。

※これまでの話し合いで出された内容をもとに高校生新聞で取り上げる際に注意すべき点や予測される困難な点について整理しながら、全校生徒に考えてもらうためにはどのような紙面づくりをしていけばよいかを各班で話し合う。

2 社会生活における「AI」の影響

近年、AI の進化は私たちの生活のあり方を大きく変えつつあります。AI の登場は生産性の向上や新しい表現の可能性を広げる一方で、AI が生成した内容の信頼性や責任の所在、さらには誤情報の拡散といったような課題も生んでいます。ウェブブラウザに AI が搭載された今日においては、私たちは必然的に AI の影響を受けている時代とも言えます。そのような状況を踏まえ、以下のように議論を進めます。

①社会生活の中での AI に関わる利点と問題点をあげる。

②社会生活をする上での AI との適切な関係性やそれらの望ましい利用法について考える。

③これまでの議論を踏まえ、AI を高校生新聞で取り上げるための企画書を作成し、班ごとに発表し、全体で共有する。

※これまでの話し合いで出された内容をもとに高校生新聞で取り上げる際に注意すべき点や予測される困難な点について整理しながら、全校生徒に考えてもらうためにはどのような紙面づくりをしていけばよいかを各班で話し合う。

◆提言者レジュメについて（該当生徒のみ提出）

・具体的討議内容 1 の①～③について、各校の状況（利用している ICT ツールの名称や使用方法、費用負担など）や自分の考えを項目ごとに A 4 判 1 枚にまとめてください。

※討議に関わる記事を載せた自校新聞があれば PDF で添付してください。

・具体的討議内容 2 の①～②について、自分の考えを項目ごとに A 4 版 1 枚にまとめてください。

※議論に関わる AI の現状や課題・AI との適切な関係性や取り扱いに関する既存記事を調べて 1 つ紹介してください。

・提言者レジュメ（必要があれば自校新聞）は、8 月 28 日（金）までに下記アドレスへメールで送付してください。（PDF ファイルでのご提出にご協力ください。）

◆参加者レジュメについて（全員提出）

・9 月 4 日（金）以降に当番校 HP にアップロードされる「提言者レジュメ」を読んだ上で、

(1) 具体的討議内容 1 の①～③について、各校の状況（利用している ICT ツールの名称や使用方法、費用負担など）や自分の考えを項目ごとに A 4 判 1 枚にまとめてください。その際「提言者レジュメ」で述べられている内容に対する感想・意見も入れて下さい。

※討議に関わる記事を載せた自校新聞があれば PDF で添付してください。

(2) 具体的討議内容 2 の①～②について、自分の考えを項目ごとに A 4 版 1 枚にまとめてください。その際「提言者レジュメ」で述べられている内容に対する感想・意見も入れて下さい。

※議論に関わる AI の現状や課題・AI との適切な関係性や取り扱いに関する既存記事を調べて 1 つ紹介してください。

・参加者レジュメの左上に、自分の分科会名・参加者番号を明記してください。

・司会もグループ討議に参加します。可能であれば、一般参加者同様にレジュメを作成してください。

・参加者レジュメは、9 月 28 日（月）までに指定の場所に PDF ファイルでご提出ください。

◆当日持参するもの（全員）

・「提言者レジュメ」とアップロードされていた各校の新聞（プリントアウトして紙で用意）

・「参加者レジュメ」（プリントアウトして紙で用意）

◆分科会打合せ（提言者・司会者・運営者・助言者）：10 月 7 日（水）15:30 から函館市民会館小ホールで実施

・レジュメ作成は「提言者レジュメ・IV 分科会支部報告と参加者レジュメの書き方」を参照してください。

・提言者レジュメ等の提出先：hokkaidoshinbun@gmail.com

・参加者レジュメ等の提出先：Google ドライブ>共有アイテム>参加者レジュメ等>各分科会フォルダ

・提言者レジュメおよび参加者レジュメのダウンロード用 URL：http://<https://ichihako.ed.jp/>（市立函館高 HP）

IV分科会 支部活動を活発にするために

各支部・学校の状況や活動内容を報告し、日頃の悩みから支部活動、全道大会のあり方まで様々な意見を交換します。
また、先輩方が議論してきた内容を継承し、道内の高校生新聞が充実していくための方策を討議します。

◆具体的な討議内容

1. 各支部の活動状況と課題、課題についてはその解決の方策を考えます。
 - ① 支部大会の日時・具体的な内容・その成果と課題について発表し話し合い、課題解決の方策を考えます。
 - ② 各支部の現状（各校の部局員数、活動状況、課題など）について話し合い、課題の解決の方策を考えます。
 - ③ 各校の生徒数が減少していく中でどのように局員を獲得するか、経験を共有します。
2. 支部大会と関わりのある全道大会のあり方について考えます。
 - ① 高校生新聞の必要性和全道大会の意義について考え討論をします。
 - ② 各支部の活動・支部活動の活発化に貢献する全道大会のあり方について考えます。
 - ③ 支部活動に全道大会をどう生かしていくか考えます。
 - ④ 来年度の第IV分科会で話したいことについて意見交換をします。
3. 近年の第IV分科会における議論を踏まえ、支部を越えた高校新聞の活動について考えます。
 - ① 支部を越えた交流の可能性について、事例を踏まえながら検討していきます。
 - ② 全道の新聞部員・局員をつなぐネットワークについて、事例を踏まえながら検討していきます。

◆事前に送付するもの（支部報告（提言者レジュメ））

- ・各支部の代表者は、上記「1」の「①、②、③」をA4版1枚にまとめ、PDFで当番校あてにメールで送付してください。

◆当日まで（全員）

- ・9月4日（金）以降に当番校HPにアップロードされる各支部の「支部報告」を読み、自分の考えを項目ごとにまとめておいてください。レジュメの作成は不要です。

◆分科会打合せ（全員）：10月7日（水）15:30 から 函館市民会館大会議室 で実施

- ・レジュメ作成は「提言者レジュメ・IV分科会支部報告と参加者レジュメの書き方」を参照してください。
- ・支部報告の提出先：hokkaido.shinbun@gmail.com
- ・支部報告のダウンロード用URL：http:// <https://ichihako.ed.jp/>（市立函館高HP）

◆提言者レジュメ／Ⅳ分科会支部報告と参加者レジュメの書き方

- 1 レジュメとは、自分が参加する分科会のテーマに基づき、自校での取り組みの報告や、自分の考え、問題点などを簡潔にまとめ、提示するものです。箇条書きでかまいません。
- 2 下のレジュメの様式に従って作成してください。
- 3 レジュメの規格はA4判、縦置き、横書きでお願いします。（参加者レジュメは両面1枚）

※ⅠA分科会の例（ⅠB分科会・Ⅲ分科会・Ⅳ分科会支部報告も同様）

| | | |
|------------------------|-------|-------------|
| 提言者レジュメ | ⅠA分科会 | テーマ「 |
| △△支部 | ◇◇高校 | □年 氏名 ○○ ○○ |
| 1 高校生新聞にできることはどんなことか | | |
| ①.....→資料1（○×新聞 △号 □面） | | |
| ②..... | | |
| 2 新聞を作る中での困難をどう乗り越えるか | | |
| ①..... | | |
| ②.....→資料2, 3 | | |
| 3 高校生新聞を発行する意義や可能性は何か | | |
| ①..... | | |
| ②..... | | |

レジュメ作成のポイント（PDFで提出）

- ①レジュメの最初に、種類を明記する。
 - ・提言者⇒「提言者レジュメ」
 - ・参加者⇒「○○ 参加者レジュメ」※○○は8月下旬に発表予定の分科会名簿に記載された番号を書く。
※司会者で参加し作成する場合は、○○に「司会」と記載。
 - ・Ⅳ分科会支部報告者は「○○支部報告」
- ②分科会名と分科会テーマを明記。
- ③支部名・学校名・学年・氏名を明記。
- ④各分科会案内に記載されている「具体的な討議内容」、「提言者レジュメ（支部代表レジュメ）について」、「参加者レジュメ」に沿って書く。
- ⑤関連する新聞を添付する（PDF形式）。
新聞の関連部分をレジュメに明記。）

4 提言者レジュメ／Ⅳ分科会支部報告の提出とダウンロードについて （ⅠA、ⅠB、Ⅲ、Ⅳ分科会）

- ① 提言者レジュメ等送付先メールアドレス（hokkaido.shinbun@gmail.com）へ8月28日（金）までに送付して下さい。
※ファイル名は「○○分科会（学校名）氏名」とし、ファイルが複数ある場合は通し番号をつけてください。
- ② 参加者は、9月4日（金）以降に当番校HPにアップロードされた参加者レジュメをダウンロードしてお使いください
（大会当日に、PDFまたは紙で持参してください。）

◆参加者レジュメ・自校新聞の提出とダウンロードについて

【対象分科会】ⅠＡ分科会、ⅠＢ分科会、ⅡＢⅠ分科会（自校新聞の提出）、Ⅲ分科会、Ⅳ分科会

- ① 大会申込書に記載されたメールアドレスで Google ドライブのフォルダを共有し、大会申込後速やかにメールを送付します。

※Google アカウントが必要となります。校務アカウントとしてお持ちでない場合は、お手数ですがご準備願います。

その場合は、改めてそのアカウントをお知らせいただけますとフォルダを共有することができます。

- ② 「Google ドライブ>共有アイテム>参加者レジュメ等」の各分科会フォルダに、参加者レジュメや自校新聞（PDF 形式）を保存してください。
- ③ ファイルは PDF 形式とし、ファイル名は「分科会名 参加者番号_学校名_氏名」としてください。（ⅡＢⅠ分科会は、分科会案内で指定されたファイル名にしてください。）自校新聞を添付する場合はファイル名に「自校新聞」を追加してください。
- ④ 参加者レジュメの差し替えやフォルダへの提出が不可能な場合は、分科会名簿に記載されている分科会参加人数（提言者・司会者・助言者・運営者を含む）プラス 20 部印刷し、大会当日に各分科会会場に持参し、配布してください。
- ⑤ ⅠＡ、ⅠＢ、ⅡＢⅠ、Ⅲ、Ⅳ分科会の参加者は、9月30日（水）以降に当番校HPにアップロードされた「参加者レジュメ」「自校新聞」をダウンロードして大会当日に持参してください。（第Ⅲ分科会のみプリントアウトして持参してください。その他の分科会は PDF・紙のどちらでも構いません）

※ファイルサイズは大きくなりますので、ご使用になる端末にご注意ください。
必ず大会参加前にダウンロードの上、閲覧できることを確認してください。

ご不明な点は、下記までお問い合わせください

〒040-0002 北海道函館市柳町 11 番 5 号
市立函館高等学校
担当：三 鹿 裕 明
[TEL:\(0138\)52-0099](tel:0138520099)
FAX:(0138)52-9955
MAIL:h_sanka@ichihako.ed.jp